

江の川の概要

江の川は、中国山地の脊梁部である広島県北広島町の阿佐山(標高 1,218m)を源流とし、いったんは瀬戸内海に向かって広島市の近くまで南下するが、八千代町、三次市、島根県美郷町で大きく弧を描くように北に流れを変え、中国山地を貫通して日本海に達する。そのため長さ 194km、流域面積 3,900km²で中国地方最大の流域面積にもかかわらず、源流から河口までの直線距離がわずか 30km程度しかないという不思議な流れ方をする川である。

流域は、広島、島根の両県にまたがり、三次市で馬洗川、西城川、神野瀬川と合流し、その後、狭い渓谷となって中国山地を横切って島根県に入り、出羽川、八戸川などを合わせて江津市に至る。中上流域は日本でも浸食平坦面の最もよく発達する地域であり、中流域となる三次盆地から河口までは先行性峡谷が続く、他の大きな河川のように河口に大きな沖積平野をつくらぬ珍しい川である。地元では、江川(ごうがわ)、中国太郎と呼んでいる。三次は古くから物資の集散地であるとともに陰陽交通の中継地でもあった。江の川は、水上交通路として、また、その豊かな水を利用して農業や漁業が営まれ人々の暮らしを支えてきた。

江の川の不思議

回転する川 江の川本流である可愛川は、中国山地の脊梁部である阿佐山から発生し、一旦は瀬戸内海に向かって流れるが途中で大きく回転するように方向を変え、中国山地を貫いて日本海に達している。

先行型河川ということ 太古の昔、中国山地の造山活動が始まる以前から江の川は流れていた。江の川の浸食力が、大地が隆起するスピードより優っていたため、典型的な先行型河川の形状となったものと考えられている。このように中央山地を貫いて流れる川は全国でも珍しく、中国地方では江の川しかない。

下流が上流? 江の川くらいの大河になると普通、河口には広々とした扇状平野が発達するものだが、この川の河口には大きな砂州は見あたらない。むしろ上流の三次市で河口的な広々とした風景が見られ、江の川はここで一旦終着したように見えるが、ここから再び急峻なV字谷となり、そのまま海に達する。そのため風景の印象が上流と下流で全く逆に感じられる。

意外と緩い勾配 車で2時間ほど川沿いを遊んでいくと、中国山地の真っ只中にたどり着くが、こんなに奥に入っても標高はわずか100mくらいしかない。140km上った三次市辺りでも、その標高が150mくらいだから、河川勾配はおおむね1/1000程度ということになる。この河川勾配の緩さが江の川舟運の発展につながっていたと考えることができる。明治20年代には江の川流域におよそ50の船着き場が存在し、最上流では八千代町の土師ダム付近まで舟運ルートが開かれていた。



河口(江津市)
江の川は山間部から突然海に流れ出す。河川の規模に対して、河口部に沖積平野がほとんど発達していない。



塩水遡上境界(江津市)
江の川は典型的な塩水くさびが発達する河川である。河口から8km付近までは、海水が常時そ上しており、海水の上を滑るように河川水が流れている。



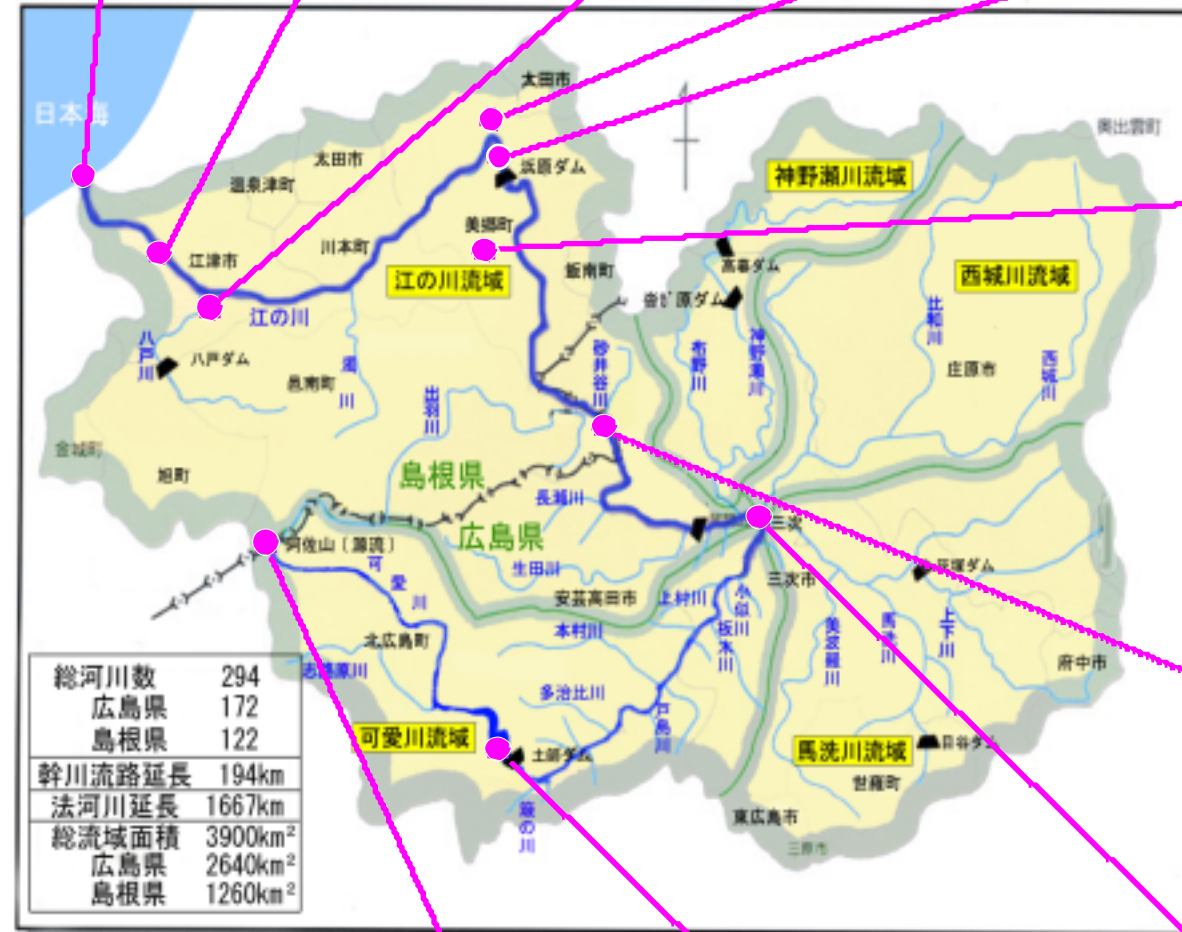
龍頭滝、観音滝(桜江町)
本流の強い流れが深い渓谷をつくったことで、支流は急な流れになり、各所に渓谷をつくっている。特に、河口に近い支流に多くの滝が見られる。



粕淵の大曲流(美郷町)
北へ流れてきた江の川は、美郷町粕淵で大きく西へ向きを変える。この大曲流は東西方向の軸を持つ構造運動が関係していると思われる。



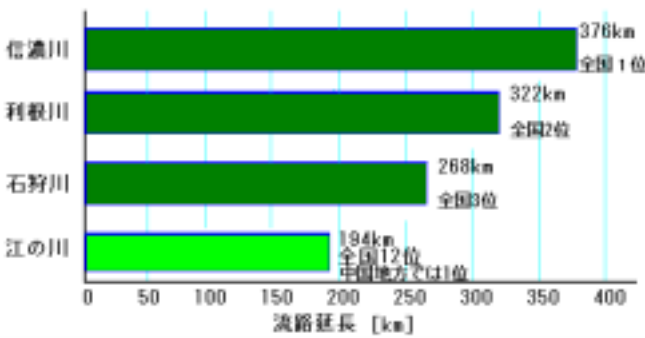
浜原ダム(美郷町)
大きな江の川をせき止めるこのダムは、高さ19m、幅361m、ゲートは全部で12門。このダムができるまでは、源流域までサケが遡上していた。



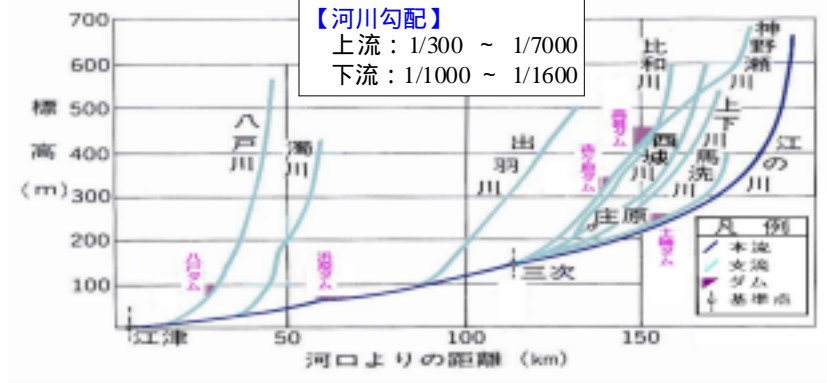
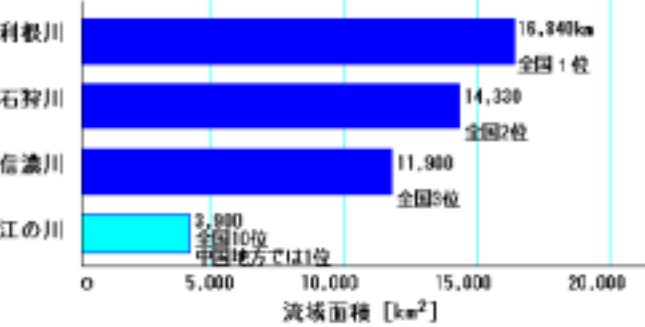
断魚溪(邑南町)
渓谷の上端と下端の高低差はおよそ120m。祝川が流れて神楽淵に落ちる所に断魚の淵がある。渓谷に沿うコースには「嫁ガ淵、通仙橋、連理滝、千畳敷、神楽淵、魚切などがある。



中国山地を横切る(作木町)
江の川は中国山地を横断して流れる。中国山地が隆起する以前から流れていた河道が山地の隆起に打ち勝ち、これを横切る形になった。このような河川を「先行河川」という。



【水収支】
江の川流域の年間降水量は約1850mmで、年平均約70億トンの水が供給されている。降雨の30%程度は途中で蒸発したり植物に取り込まれ、最終的には約49億トンの水が河川水や地下水となって日本海に注いでいる。年間流出量のうち30%が6~7月の梅雨期に、20%が3~4月の融雪期に集中しており、定常的には24億トン程度の水を得ている。



源流(大朝町)
阿佐山(1218m)



土師ダム(安芸高田市)
1974年に完成した洪水調節などを目的としたダム。総貯水量4730万トン。



下流域を思わせる流れ



巴状に合流

三次盆地を流れる(三次市)
本流(可愛川)は、広島県芸北町から流れ出て、三次盆地で馬洗川、西城川と巴状に合流。下流部の霧雨気をもったゆったりとした流れになる。